

日蓮宗 常栄山
本照寺だより

「本照寺だより」が100号に



読み終えましたら、別居家族やご親戚に差し上げてくださると有り難いのですが……m(_ _)m

第99号
厚木市下古沢133
TEL・046-247-1156
FAX・046-247-1156
振替・0230-7-35749
(加入者名・本照寺)
発行所 須藤教裕
本照寺・須藤教裕
携帯090-9151-6438
honshou49@i.softbank.jp

■平成15年に「本照寺だより」を上梓して以来、次号の10月号で100号となります。上記「本照寺だより」は第8号ですが、A4の紙に印刷も自分で行っていました。現在はB4の紙で、印刷は外注となりました。割り付け(レイアウト)や文章は私が手がけていますので、副住職のコーナーを除き、住職手作りの新聞となります。これも日蓮宗霊断師会本部「聖徒タイムズ」編集部に勤めていましたので、手がける思いに到った次第。

地元の社会福祉法人様で職員の方のメンタルヘルス研修を担当したことをご報告いたします。

1月下旬に、地元で福祉事業を行っている「厚木精華園」様で、職員の方向けのメンタルヘルス研修を担当いたしました。持ち時間は1時間。本来は昨年の同時期に行う予定でしたが、コロナで1年越しの開催です。人が外の世界から受け取った情報や心の声を認識して理解する過程に対して、瞑想がどのように作用するのかを説明し、参加の方と一緒に呼吸を観察する瞑想と歩く瞑想を実践いたしました。

社会福祉法人でメンタルヘルス研修を担当しました

副住職のコーナー



また、現場で働く人ほど抱えているのかを予め調べておき、それに対して、瞑想を続けていくことでこのように自分の反応が変わる可能性があるとということを伝えることができました。結果、アンケートでは87.5%の方が「とても良かった」「良かった」と回答してくださり、大変嬉しい限りです。この度、厚木精華園様には大変貴重な機会を与えていただき、誠にありがとうございます。



体育館で研修を行う様子

私自身、仏道を歩むことで本心に人生がラクになってきたなあと実感があります。そして、一人でも多くの方に同じような喜びを体験していただくことが僧侶の使命だと考えています。団体での講演・修行体験等のご要望がある方は、ご相談ください。可能な限り対応いたします。

お施餓鬼・お盆のご供養

■今年のお施餓鬼は、法要を午前中に行い参列を解禁いたします。卒塔婆の受取は引き続き時間帯を分けるので、以下をご参照ください。

■8月16日、午前9時から10時過ぎまで先祖供養のための大法要「お施餓鬼供養会・おせがきくようえ」を執り行います。新盆を迎える方は必ず出席のもとご供養いたしたいものです。■卒塔婆(そとうば)ご供養希望の方は、同封の「払込用紙」を用いお申し込みください。払込用紙の通信欄に「先祖代々」や「〇〇院〇〇信士・信女」など、どなたの卒塔婆を立てるか必ずご記入ください。未記入の場合は先祖代々としてさせていただきます。お布施はご同封、卒塔婆代と併せて4千円です。■卒塔婆は2週間以内に自分で立ててください。立てられない場合はご連絡ください。



まごころ込めて

ご埋葬
おまかせください

埋葬料 11,000円
字彫代 38,000円

お墓のすべて
ご相談ください

●花立交換 ●メジ修理
●砂利交換 ●耐震化...

本照寺様出入り石材店

株式会社イシックス

0120-011140



★今年も墓参用の花を「花美」さんが用意しています。お盆は8月10日まで用意いたします。

お盆の棚経

■昨年同様、以前お棚経(たなぎょう)に伺っていたお宅が新盆を迎える場合と、申込のあったお宅へ棚経に伺います。詳細は別紙を参照の上ご検討ください。■お盆の送り火は16日の「お施餓鬼」を終え、お墓参りから戻った夕方方になります。

■読んでくださることを願っています。次なる200号は約20年かかりますので…後任に譲ります。

4つ子たちへ
伊藤敏孝 63
東京都中野区
◆妻は長い不妊治療を経て、24年前の12月に4人の子を産んだ。超未熟児の4人はしばらく新生児集中治療室で過ごし、2カ月後に自宅に帰された。夫婦は初めての子育てにおおろしながらも、泣けば抱き、オムツを替え、ミルクを飲ませて毎日過ぎた。粉ミルク缶は3日でなくなり、紙おむつは箱で買った。

大人4人が子を1人ずつ抱き、タクシー2台に分乗して予防接種に行った。入浴は風呂場で子を受け取り、一緒に湯船につかる。洗髪や身体を洗い、再び湯船につかるとから子を受け取り、妻に渡し、次の子を受け取るというのを4回やった。夜中に適温のミルクを次々とできるだけ速く作るにはどうしたらいいか考えた。双子用ベビーカー2台を押して、荷物をつり持ち移動した。車には4つのチャイルドシートを付けた。大人用の布団1枚に4人全員を並べて寝かせることができた。4人とも寝た奇跡的な時間に聞こえる小さな寝息は、ずっしりと重い4つの命を感じさせた。それらを預かる責任と重圧で胸が苦しくなった。多くの人に助けられながらの怒濤(どとう)。

のような子育てだった。4人は大きな病気やけがもなく成長した。頑張った4人を産み、子育てに奮闘した妻は、4人が12歳の誕生日を迎えた頃にガンの宣告を受け、4カ月の闘病の末に亡くなった。それからまた12年が過ぎた。それぞれの場所でも張り、今月誕生日を迎える年男、年女の4人。君たちが生まれた頃の様子を話しておきたくなったのだよ。(産経新聞・朝刊エッセイ)

「仏教各宗派による供養とは」

▼今回は幸福の科学出版・令和5年2月号・月刊「ザ・リバティ」に掲載された文章の一部分ですが、紹介したい。「あの世を信じない宗教家などいるのか?と驚く人もいるかもしれない。だが残念なこと、これが実に多いのだ」と、その文章は始まる。(幸福の科学・大川隆法総裁は2月28日死去)

「あの世は無い」とする住職たち

■(前略)「私は死んだことがないので、あの世があるかどうか分かりません」新潟県在住の三浦純子さん(仮名)は、父の通夜式で、菩提寺の住職が読経後の説法でこう言い放った時のショックが忘れられないという。「浄土宗の寺院ですから、檀家さんに『故人を浄土に送る』という話をさんざんしてきたわけです。なのに供養をする側の住職が『あの世があるか分からない』と言う。だって

正大学、東京農業大学、佛教学非常勤講師)。

■40年以上にわたり曹洞禅宗の僧侶をしている清水義昭さん(仮名)は、次のように語る。(中略)「実感として、周りの僧侶の9割があの世や霊魂を信じていないのではないでしょ

うか。あの世の話をしていて、他の住職から『馬鹿じゃないか』と言われたことは、何度もあります」

また清水さんは住職になる前に、曹洞禅宗の大本山で修行していた時の経験を語る。

「ある時、修行僧が一人ひとり説法する弁論大会が開かれました。そこで私は、出家前に遭遇した心霊体験に触れながら説法したのです。大学の時代の寮がお墓のすぐ近くにあったのですが、私自身も幽霊を

教会での日曜礼拝は「演技」?

供養の意義も学ばず

◆「生を明らめ、死を明らむるは仏家(ぶつけ)一大事の因縁」として真正面から死という問題を受け止め、考えてきた仏教。また過去世や来世といった文言が仏教経典にあるにも関わらず、いつしか日本仏教は霊魂や死後の世界の話タブー視、迷信視する風潮となってしまったのです…。

した状況は、僧侶養成所や大学で学ばずとも見られる曹洞禅

宗の駒澤大学仏教学部で学び、大学院にまで進んだ住職の橋本瑛士さん(仮名)は、次のように語る。

「授業の中でも、仏教の代表的な教えと思われる『六道輪廻』や『地獄』の話が出てきた記憶はありません。供養や葬儀の意義も学びませんでしたので、供養すること自体が分からない人が多かった

無神論牧師

■キリスト教の牧師や神父も例外ではない。2010年、アメリカにおいて「信者ではない牧師たち」と題した驚愕の研究結果が発表された。

そこでは、聖書の教えなどに疑問を覚えながらも、本音を隠して聖職を続ける人々の声が記されている。ある40代の牧師は、日曜日の礼拝については「演技」だ

編集後記

◆「米国のカリフォルニアでは結婚式を挙げる場合、式の最後に『夫と妻』という言葉を使うことは法律で禁止されています。性的に中立な意味の『配偶者と配偶者』を使わなければならないと『The(彼)』と『She(彼女)』も性的な差別語であると考えられています。これはポリテイカル・コレクトネス(人種、宗教、性別の違いによる偏見や差別を含まない中立的な表現や用語を使用する)によります」(月刊「致知」)。マックス・フオン・シュラー66歳。

◆これらの思想傾向は左派(リベラル)、つまり共産主義、社会主義などに見られます。10年遅れでアメリカから日本へと様々な思想や流行が届くと言われますが、その傾向は以下に記す16年前の「本照寺だより」を見れば明らかです。

◆現在、日教組の強い中学校ではジェンダーフリー(ジェンダーフリー(性差平等)なら共感するがジェンダーレス(性差否定)は共感できない)として着替えと検診、騎馬戦、徒競走、修学旅行の宿泊部屋などが男女混合で行われ(これは性差否定である)、国会でも『行き過ぎ』として問題にされています。先日、ある方にこの話をした所、『マグロ漁船にらせて一本釣りを経験させる』と『ご意見。そう、世の中は家庭から社会まで、それぞれの得手不得手、役割分担あつての『全体』成立なんです。性差否定ならば、オリンピック競技の100m徒競走も男女混合にするという。金メダルは男性ばかりとなるだろう』と書いた。男性、女性の文言が死語にならないことを願う…。

とする。こうした、信仰心が無いにもかかわらず、家業と

して継いでいるだけの聖職者は、東西の伝統宗教にかかわ

らず増えている。

■僧侶、宮司、牧師、神父。ご祈祷や祈願、ご供養、葬儀などを、一体どういう気持ちで執り行っているのか…。(後略)

◆以上、「ザ・リバティ」から一部紹介したが、文中、日蓮宗僧侶は信じるが80%とあった。しかし、現役・日蓮宗霊断師(れいだんし)は100%で間違いはない。私も霊断師のひとりである。ひとつの経験をお知らせしよう。

なぜ?

■20数年前、一本の電話が掛かってきた。女性いわく。「霊現象で夜も寝られない」と。状況を聞いて私は「分かりました、伺います」と。

すると「え!来てくださるんですか!?!」「はい:何か?」「お宅のお寺で8件目なんです。全て断られ

のか?なぜ困っている人を助けないのか?不可解である。私は枚挙にいとまがないほど、そういった現

場に足を運んだ。また80%?90%?「お陰さまで」との返事をいただいている。日蓮宗の僧侶であれば、先ず何うだろう。しかし、他宗派は、特に浄土真宗系は霊魂を否定する向きが強い。浄土真宗本願寺派は「固定的な実体としての霊魂を否定するのが仏教」「浄土真宗においては追善供養は行いませぬ」などとする。確かに、西方極楽浄土に仏として生まれ変わるのあれば、個としての霊魂は存在しないはずだ…。



このたびの記事が掲載された「月刊リバティ」④と記事⑤



霊の話をすると、法師が驚く

「あの世を信じない宗教家などいるのか?と驚く人もいるかもしれない。だが残念なこと、これが実に多いのだ」と、その文章は始まる。(幸福の科学・大川隆法総裁は2月28日死去)